

99 《聖マタイの召命》 髭男は、先行質問者

よくある誤解 その1

2024（改訂版）

真鍋友範



現地 実際の展示状況

1 完全なる誤解

《聖マタイの召命》は誤解に塗れた解釈に、その真相が隠されている。

まず、【中央の髭男は、イエスの召命動作が不鮮明である為に、イエスに対して問い返している、という誤判断】だ。

この誤判断の理由は、現地でこの絵画が良く見えない点にもある。1600年からこの展示環境は、ほぼ変化していない。補助照明が加えられ、少しだけ周辺を明るく照らす程度の変化のみだ。

さて、この環境で、【髭男の左手の親指が見えるだろうか。】

目を凝らせば見えるが、【実際は、ほとんど意識に残らない】のだ。

そして、【ほぼ同時に、イエスの右手の不鮮明な手先と、腕の動作が目に入る。】

これが、【髭男は、イエスの不鮮明な右手召命動作のみを見て、問い返したという誤判断の出発点】となるのだ。

髭男の親指を見逃すことの意味は、極めて重大なのだ。



* 真正面から見たなら、カラヴァッジョの描画意図が正確に内容が読み取れる。

この【髭男の立てられた親指】は、【お探しの方は、私ですか】の意味であり、カラヴァッジョは意図的に描いている。

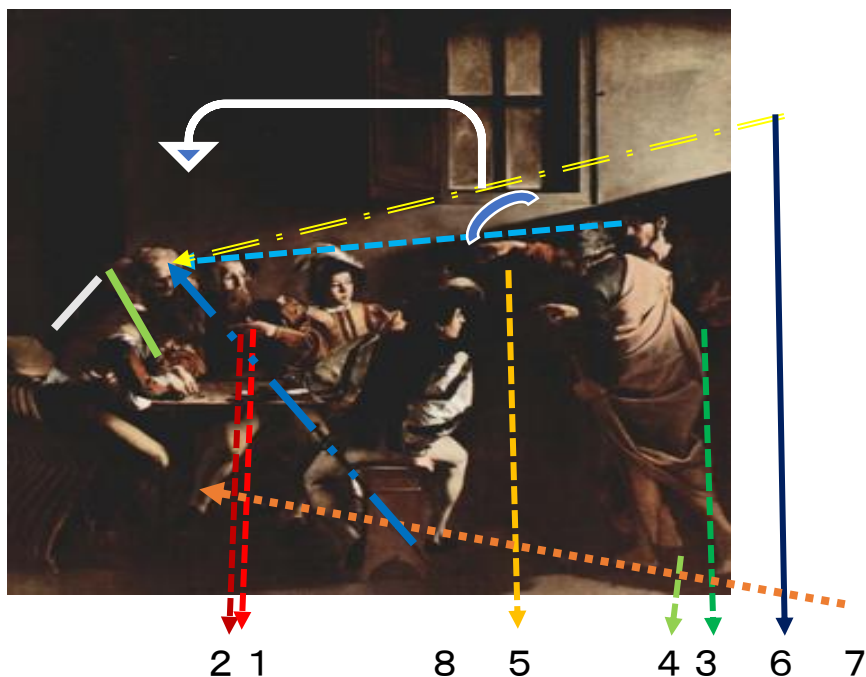
つまり、髭男の左手の動作は、【イエスへの二段階の質問ポーズ】であり、【先行質問ポーズ】なのだ。

髭男は、突然のイエス一考の出現に対し、イエスの視線から類推して、先行質問した。

もう400年前の美術史家・ベッローリのデタラメ解説から、脱皮すべき時期なのだ

では、真実のストーリーは何なのだろうか。以下に示そう。

2 《聖マタイの召命》 真実のストーリー



- 1) 親指を胸に当てる髭男の動作「私をお探しですか」
- 2) 人差し指の動作「それとも、隣のメガネの収税人ですか」
- 3) イエスは、左手を広げて質問に返答する「答えよう」
- 4) 右足の一步左側への位置移動
 >>>その意味は、【メガネの収税人の顔が見える位置への視点移動】
 【決して、召命も終えることなく、イエスが帰ろうとしているのではない。】
- 5) イエスの右腕・手首の回転動作
 【手首より先に力無し・指差し動作では無い】
 *イエスの右手は、メガネ男の顔付近で回転を停止している。(普遍的動作)

(ライトブルーの線)

参考6) 右高窓から、父なる神からの一条の導きの点光が侵入する。(イエロー点線)

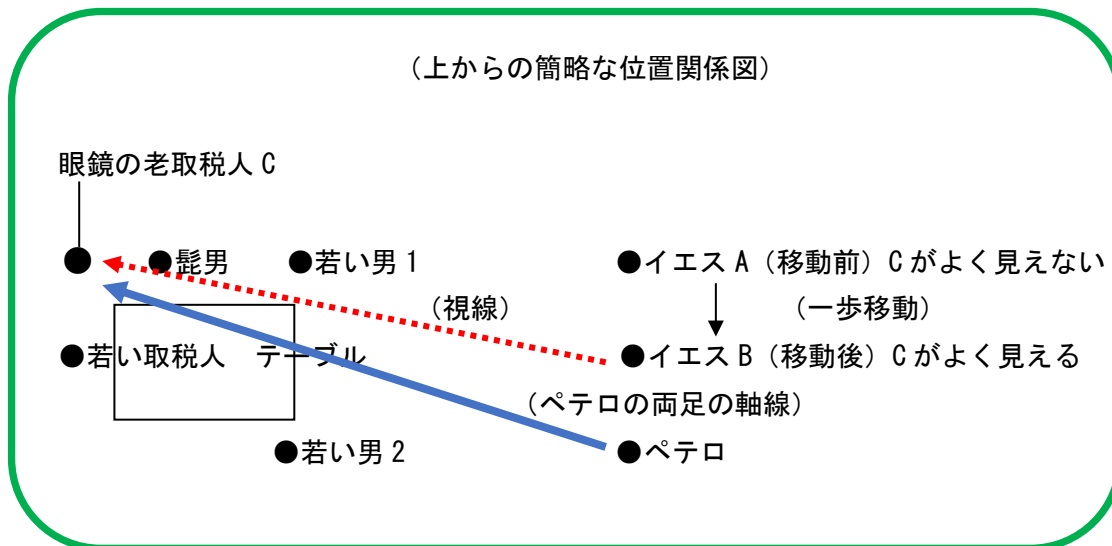
参考7) ペテロの両足の軸線は、メガネの収税人の足元に向かっている。(オレンジ点線)

参考8) 背を向けて腰掛けている男の腰の剣の軸線は、メガネの収税人の光点に向かっている。(ブルー点線)

イエスに呼ばれたマタイは、(右手を机に突いて寄りかかった姿勢から)立ち上がり、イエスに従ったのだ。(注：マタイ福音書に、マタイは、椅子から立ち上がったとは記述されていない。)

*あなたも眼鏡の収税人と同じ、45度に背中を傾けた傾斜維持姿勢(ライトグレー)を

真似て、長時間同じ姿勢を維持しようとする、100パーセント右手を机に突いた姿勢になる。(ライトグリーン)



* 質問する髭男の【向こう側】にいる人物は、ただ一人。
召命対象者は、眼鏡の老取税人だ。

[PREV](#) ← ● → [NEXT](#)